

井原市公共交通会議（令和5年度第6回）議事録

と き 令和6年3月26日（火）

15:00～

ところ 井原市民会館 鏡獅子の間

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 26名中 21名

2. 大舌会長あいさつ

3. 協 議

1) 運行見直し基準に基づく路線・ダイヤの見直しについて

《運行実績について》

- ・ 事務局より資料1（p1～p3）を用いて説明

（会 長） 運行実績についてご質問等はないか。

（会 長） 矢掛～美星産直プラザ線が縮小の基準に該当しているが、令和6年2月～9月に再度検証する際に地域への周知は行うのか。

（事務局） 公共交通かわら版等での周知を予定している。

《あいあいカーについて》

- ・ 事務局より資料1（p4～p12）を用いて説明

（会 長） あいあいカーの利用状況についてご質問等ないか。

（委 員） 美星北西部エリアの1人あたりの平均利用回数は10.8回/人で非常に多いが、実利用者の4人は全員がまんべんなく利用しているのか、1人が集中的に利用しているのか教えてほしい。

また、事務局の説明では事務局から行きは路線バスで帰りはあいあいカーを利用している人がいるとあったが、送迎等も考えられるのではないか。利用者にとって負担に感じていることがあることから、行きと帰りで別の交通手段を利用している可能性もあるため、そのような理由を事務局が把握している範囲で教えてもらいたい。

（事務局） 美星北西部エリアについては、1人の利用者が集中的に利用しているのではなく、実利用者全員がまんべんなく利用している。行き帰りの移動手段の違いについて、通学や通院でも路線バス以外に家族の送迎も多いと思われる。特に通学は路線バスよりもあいあいカーの帰りの時刻が生徒に適しているため高頻度であいあいカーを利用されている。また、路線バスとあいあいカーの併用利用については、数値等の検証はしていないが可能性があるということで記載している。

（委 員） あいあいカーに問題があり、行き帰り両方での利用がされていないなら、

- 原因を突き止める必要があるため、現状しっかりと把握してほしい。
- (委員) 外国籍の方があいあいカーを利用していると聞いているが、現状何名が利用しているのか教えていただきたい。
- (事務局) 10名前後登録いただいている。就労期間の関係で入れ変わりもあるが、市内への買い物等で利用されており、複数人で乗り合っただけで一緒に利用してもらっているため効率良く運行ができています。
- (委員) コロナ禍前との比較や外国籍の方がいつ頃から増えたか分かれば教えていただきたい。
- (事務局) 新型コロナウイルスが5類感染症に昨年以降したこともあり、昨年(令和5年)の夏頃から利用が増えている。
- (委員) 「縮小」の運行見直し基準に該当した路線については、今回検証を進めることとされているが、令和6年10月～令和7年1月にかけてフロー図に沿った期間で検証されるという認識でよいか。
- (事務局) その通りである。
- (委員) 来年の10月以降には縮小等の議論をするのか。
- (事務局) 来年の10月に検証して、縮小等が妥当か協議をお願いすることになる。
- (会長) 原案のとおり承認してよいか。

【協議事項承認】

2) 令和5年度井原市公共交通会議補正予算(案)について

- ・事務局より資料2を用いて説明

(会長) 令和5年度井原市公共交通会議補正予算(案)についてご意見等ないか。

質疑・意見等なし

(会長) 原案のとおり承認してよいか。

【協議事項承認】

4. 報告

1) 井原市地域公共交通計画の改定について

- ・事務局より口頭にて報告

2) 地域公共交通計画の実施状況について

- ・事務局より資料3を用いて説明

(会長) 地域公共交通計画の実施状況についてご意見等ないか。

(委員) バスや予約型乗合タクシーの利用者数について現状維持ができていない状況である。令和5年度について、コロナ禍前後を比較した数字等は把握しているのか。

また、公共交通を利用したお出かけの頻度について、回答者の割合が前年

度と大きく異なっており、調査方法が変わっているため、前年の結果と比較しても意味がない。今後事務局はどのような方法で調査していこうと考えているのか。他市町村では定期的な調査や市政モニターを募ってウェブ調査をしており、そのような調査と連動することで調査の数や質を確保し、継続していくことが必要だと思われるが、井原市では可能なのか。

(事務局) あいあいバスの利用者に関してはほぼ横ばいだが、あいあいバスを含めて井原市が主体となっている公共交通は、コロナ禍前から 5,000 人程度、年間利用者数が減っている。民間路線バスについては毎年数千人単位で年間利用者数が減少しており、コロナ前の水準まで回復できていない。特に民間路線バスは通学利用の占める割合が大きく、児童・生徒数の減少に伴い年間の利用者数も減っている状況にある。あいあいカーは利用が増えている状況なので今後も注視していきたい。

計画の検証における調査の方法については、来年度の市民アンケート調査をきっかけに定期的な回答者を募集出来ないかと考えている。また、交通事業者の皆様にご協力いただきバスの待合所や回数券の販売所でバス利用者の回答を集める等、サンプル数の確保も必要だが、しっかりした回答が得られるよう調査を検討したい。

(委員) バス停の待合環境や乗務員の待遇についてはほとんど前年度と同様な数値だという説明だったが、この数値はバス利用者だけのデータなのか。調査対象が異なるため、集計方法について教えてほしい。

(事務局) バス利用者は少ないので、全体で集計した数値を採用している。高頻度でバスを利用していないが、待遇が良いというイメージを持っていただいている。

(委員) 運転手の待遇に関しては実際に利用してみないとわからないので、バス利用者で再度集計し、正確な状況把握をしてほしい。

(委員) 老人クラブ連合会でも、交通の問題を深刻に感じている。東京ではアプリでタクシーをすぐ呼ぶことができるので、今後はそのような先進的な仕組みを取り入れていくことも検討していただきたい。また、利用者の視点に立ったサービスが必要だと感じており、あいあいカーはバスの停留所では降りられるが他の場所で降りられないという話を運転者から聞いている。そのような中で、行政が主体ではなく、民間が主体でスーパーや病院等が協力して各施設の前に停留所を作る「チョイソコ」の事例が新聞で紹介されており、非常に良い取組だと感じた。このような全国の事例を参考にし、高齢者が移動しやすい仕組みを目指してほしい。

(委員) 「チョイソコ」の仕組みは岡山県内だと真庭市で導入している。制度上は区域運行で特に新しいものではないが、乗降ポイントを細かく設定することができるため、非常にきめ細かな運行することができるという話を聞いている。また、国土交通省でも行政だけではなく、スーパーや病院等、地域の関係者が一緒に協力して公共交通について取り組んでいく共創という形を重視

しており、今の井原市の仕組みでも、工夫によって対応できると思うので、地域を交えて検討していただきたい。

(委員) 東京の山手線では、一番近い駅でも2 kmないが1乗車で140円はかかっている。井原市の公共交通は利用のコストが低減されていることを利用者側も認識しておく必要があると思う。現在、燃料費等の高騰により運送業者も大変苦しんでいる中で、利用者側もこの運賃で今後も運行を維持できるのかという視点を持って議論してもらいたい。

(委員) 乗務員の待遇に関して、今まで乗務員に対して不快な思いをしたことがないので満足と感じている人が45%しかいないのは不思議に感じた。

これまで市では何回も住民説明会を開催しており、あいあいカー等について説明できる人も増えていると思う。今後は自治会長や公民館長等も公共交通の案内できれば良いと思った。高齢者の事故を防ぐためにも、あいあいカーの利用を広く勧めてもらいたい。

また、バスの体験学習会も芳井地区の幼稚園等、これまで開催していないところでも開催して取組を広げてほしい。あいあいカーの利用登録についても市から積極的に地域へ勧めて、様々な方面からのアプローチによって地域の公共交通を盛り上げてほしい。

5. 閉 会

(委員) 井原市公共交通会議は本日のように市民委員の皆様の発言が多く、非常に良い会議だと感じており、今後もこの雰囲気을大事にしていきたいと思う。来年度以降もぜひ会議に参加して積極的な発言をお願いしたい。

以上